

P1-019

特別支援学校の自立活動教諭（看護教員）が子どもと家族の課題を解決するための看護方法

遠藤 幸子¹、添田 啓子²、西脇 由枝²

¹埼玉県立蓮田特別支援学校、

²埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科

【研究目的】

本県は平成16年度から看護師を看護教員（自立活動教諭）として採用し、医療的ケアを教育的に捉え実施する役割を与えた。しかし、看護教員の実際の活動や方法は調査検討されていない。そこで、特別支援学校での看護教員の活動の実態を明らかにし、看護教員が行った援助過程を記録物から振り返り、どのように看護教員が課題を解決したかを明らかにし、特別支援学校の看護方法を検討することを目的とした。

【研究方法】

1. 特別支援学校1校の看護教員の1年間の活動内容を業務記録物から調査集計した。2. 特別支援学校2校の看護教員の2年間の業務記録物から、4事例の課題解決の援助過程を転記しデータとした。記録から想起した振り返りと関わった教員の想起を記述した。質的記述的に分析し看護方法を抽出した。所属機関の倫理審査を受け、学校長、保護者等から同意を得て行った。

【結果】

1. 援助対象は7名で、うち3名は重症心身障害児で多様な疾患・障害を有し複数の医療的ケアを必要とした。看護教員の活動は医療的ケア実施以外に子どもの支援が一番多く、うち相談・面談を年間70件実施。相談・面談の内容は、自立活動に関する支援44件、健康改善39件等だった。2. 看護教員は【面談を実施】し、課題や相談内容を把握する。そして、子どもの健康や障害の状況・母親の思いや考えを理解する必要性を判断する。【健康観察を実施】し、子どもの健康状態や発達段階、セルフケア能力を評価し、子どもの自立を目指し健康管理を促す活動を行う。同時に母親と担任教員のケア能力を評価し、子どもの健康保持の為に予防的に助言を行う。並行して子どもの医療情報の必要性を判断し【主治医や相談医と連携】を図る。子どもの学校生活の適応と学校で対応可能な医療的ケアを検討し【医療的ケアの必要性を見極め】【課題解決に向けた目標を設定し医療的ケアの内容の決定】【校内周知】を行う。【母親・子どもの理解を得る】【医療的ケアを実施】し、健康状態と学習活動を調整し子どもに適した医療的ケアを実施する。実施の効果から【医療的ケア実施を評価】する。看護教員は、これらを子どもと家族の課題を解決するための看護方法として行っていた。

【考察】

本研究で明らかにした看護方法を看護教員が共有できるとケアの向上に繋がる。また、教員にこの看護方法を伝え、看護教員の役割について理解が深まると教育活動の充実に役立つ。

P1-020

プレイリーダーによる在宅療養のこどもへの遊び支援活動

荻須 洋子、本田 睦子、香月 雅子

認定NPO法人 難病のこども支援全国ネットワーク

【はじめに】

子どもは遊びを通して、友達や社会と関わり成長発達する。病院に入院している子どもにとっても遊びは、子どもらしい体験の時間として重要である。そこで、難病ネットでは、子どもの心理や発達について基本的な知識を持つボランティア=プレイリーダーを養成し、病院に派遣することによって、入院を余儀なくされている子どもに、豊かな遊びを提供し、心身ともに健全な成長発達を促している。平成27年1月より、小児慢性特定疾病児童等自立支援事業が始まり、難病ネットでは東京都の委託事業として、遊びのボランティアの派遣を開始した。これまでの病院での活動に加えて、在宅療養やレスパイト入院時の遊び支援活動を開始した経緯と意義、また今後の課題について検討する。

【対象と方法】

東京都に在住の小児慢性特定疾病対象者は約7000名である。この対象者に東京都福祉保健局によるリーフレットを作成し、その中に遊びのボランティア（プレイリーダーの派遣）の紹介を入れた。紹介が開始されたばかりであるが、難病ネットに派遣要請の依頼があり、派遣事業が平成27年秋より開始された。事業開始にあたって、派遣事業の趣旨に賛同して参加するプレイリーダーを募集した。現在26名が登録して、活動にあたっている。遊びのボランティアを希望する家族とボランティアのマッチング、在宅訪問にあたっての諸注意、遊びの方法など整えなくてはならないことがまだまだ多くあり、試行錯誤の日々ではあるが、実際の訪問活動を多数行うことで、実績を積み、より良い事業になるよう努めている。

【結果】

昨秋から開始した事業ではあるが、訪問回数も増え、訪問先の子どもたちにも家族の方々にも喜んでいただいている。在宅療養の子どもたちは療養生活も長期にわたるので、遊び環境にも恵まれないが、遊びのボランティアが訪問することで、子どもたちの健全育成の一助となり、病気や治療の不安を軽減し、日々の生活が楽しくなるように活動をしていきたい。プレイリーダーについては、これまで以上に研修内容を充実させ、新規プレイリーダーの養成事業にも、自立支援事業の内容を盛り込んでいきたい。